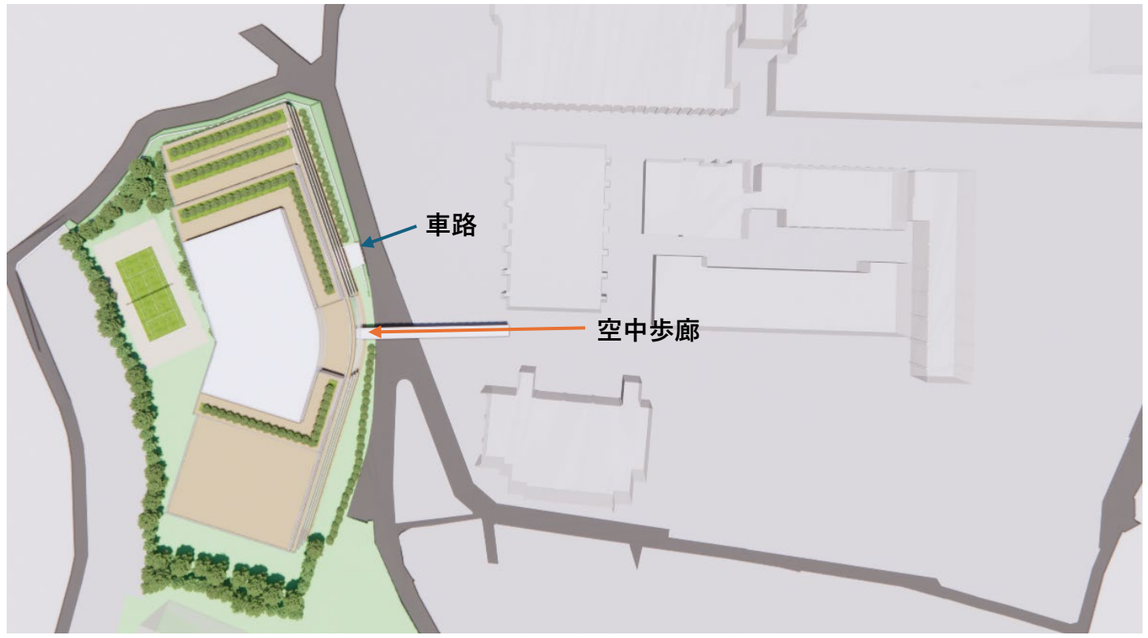
参加者番号

0	0	3

（様式８）**技術提案書**

課題 1

配置計画



歩車分離
キャンパス中央に歩行者専用のプロムナードを設ける。車両の通行エリアは敷地周辺に配置し、歩行者の安全を確保する。

バリアフリー設計
エントランスや主要な動線にスロープやエレベーターを設置し、段差を最小限に抑える。視覚障害者のための点字ブロックや案内サインも配置する。

災害拠点機能
キャンパス内に緊急避難所となる耐震・耐火性の高い建物を配置し、非常用電源や水の供給設備を備える。また、災害時に避難経路が明確になるようサインを設置する。

ゾーニングの最適化
教育エリア（教室・講堂）、研究エリア（ラボ・研究室）、行政エリア（事務室・会議室）、学生生活エリア（学生寮・食堂）を明確に分け、それぞれのエリア間にスムーズなアクセスを確保する。

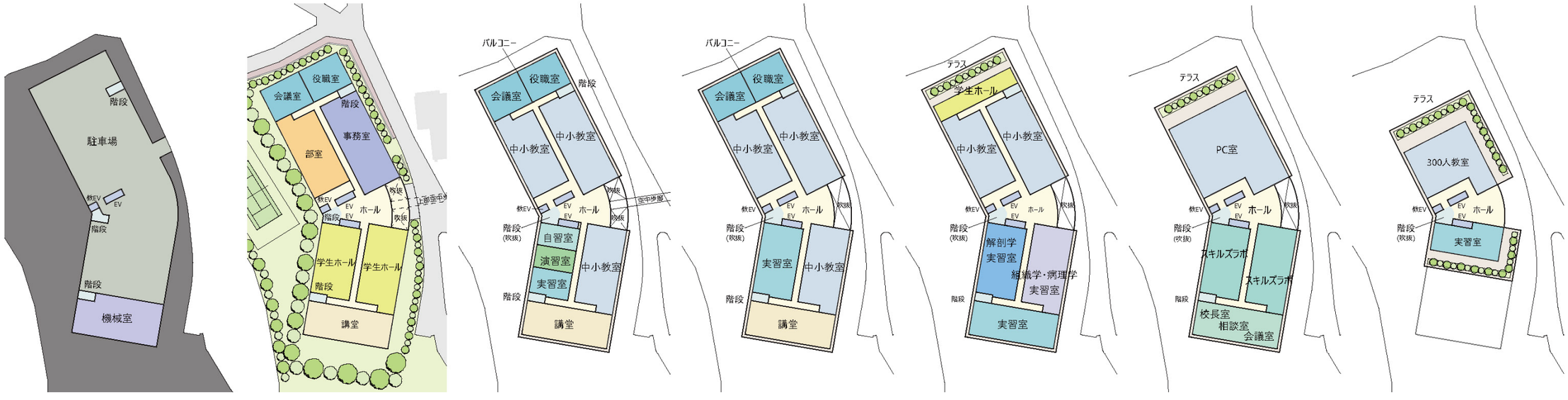
緑地の確保
キャンパス内に中央公園を設け、緑地帯を広く確保する。散策路やベンチを設置し、リラックスできる環境を提供する。緑のカーテンや屋上緑化も取り入れる。

将来の拡張性
新築する建物にはモジュール式の設計を採用し、将来的な増築や改築が容易にできるようにする。また、既存建物の隣接地を空き地として確保し、将来の建設に備える。

コミュニティスペースの創出
学生や教職員が交流できるオープンカフェやラウンジを設け、自由に利用できるラーニングコモンズを中央エリアに配置する。また、定期的なイベントスペースも設置する。

エネルギー効率の向上
太陽光パネルや地熱利用システムを導入し、建物のエネルギー効率を高める。高断熱・高気密の建物構造を採用し、自然換気システムを取り入れる。

各階平面図



地下1階
・駐車場
・機械室

1階
・講堂・会議・役職・事務
・部室・学生ホール

2階
・中小教室・自習室
・演習室・実習室

3階
・中小教室・実習室

4階
・解剖学実習室
・組織学／病理学実習室
・中小教室・学生ホール

5階
・校長室・相談室・会議室
・PC室・スキルズラボ

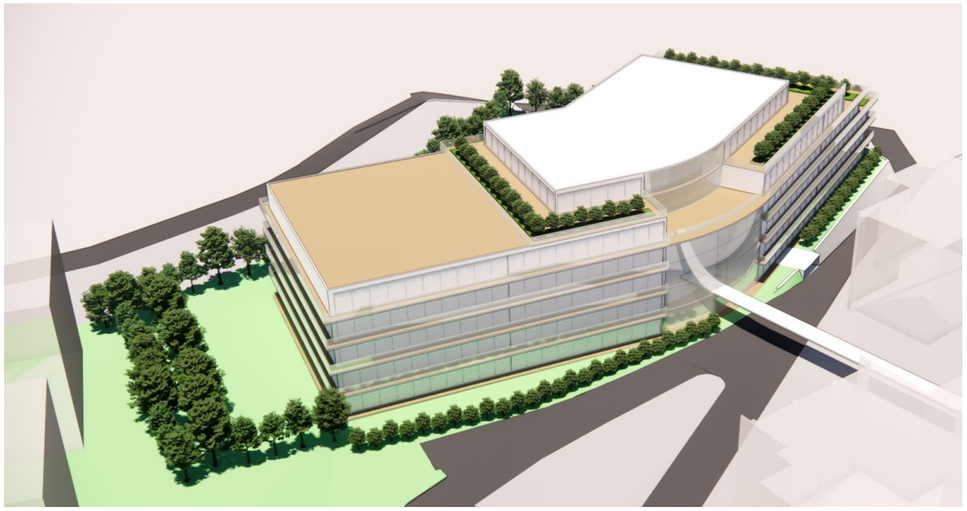
6階
・300人教室・講堂

参加者番号

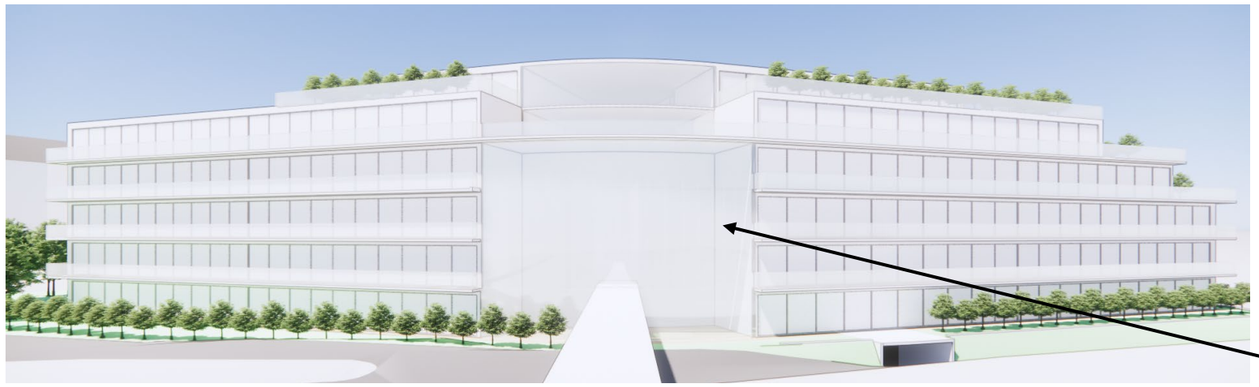
0	0	3

（様式８）**技術提案書**

課題 2







段状の屋上緑化

吹き抜け　建物を象徴するファサード

ホールに面する緑化



オープンスペースとプライベートスペースの調和

開放的な共用エリアと静かな個人学習スペースをバランスよく配置し、様々な学習スタイルに対応する。

学際的な交流促進

学部や学科の垣根を越えて交流できる共用スペースを多く設け、学際的なコラボレーションを促進する。

モジュール式レイアウト

教室や研究室をモジュール式に設計し、用途や人数に応じて柔軟にレイアウトを変更できるようにする。

自然光と換気の最大化

各部屋に十分な自然光を取り入れ、効果的な換気システムを導入して、健康的な室内環境を提供する。

インタラクティブな学習空間

デジタルホワイトボードやプロジェクターなど、最新の学習支援ツールを備えたインタラクティブな教室を設ける。

リラックススペースの充実

学生や教職員がリフレッシュできるカフェやラウンジ、屋外テラスを設置し、リラックスできる環境を提供する。

環境に配慮した建材や設備を採用し、省エネルギーを実現する持続可能なキャンパスを設計する。

参加者番号

0	0	3

（様式８）**技術提案書**

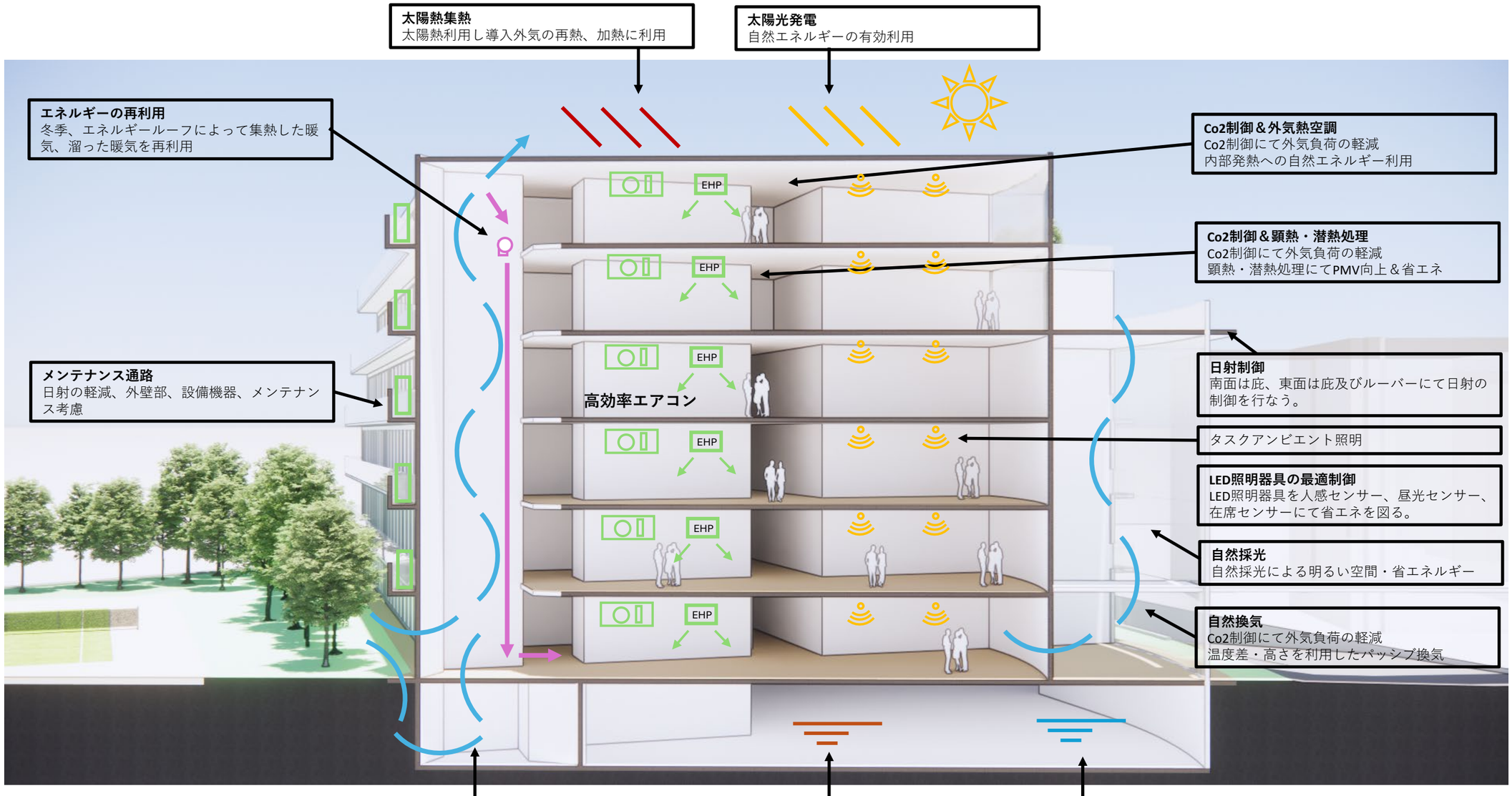
課題３

自然災害からの継続性

・空調：空調エネルギーのハイブリッド化、発電機能付きの空調システムを１階学生ホールなど、人が集まる場所に計画、生徒を含めた人を守る空間作ります。
・電力：太陽光発電設備、蓄電池及び発電機系統の最適化を図り、イニシャル・ランニングコストの最適化を図ります。
・給排水：雨水槽を設け通常は中水としてランニングコストの軽減を図る。災害時は浄水器を介し水源として利用できる計画とする。

自然を生かす

・『エネルギールーフ』の自然採光の導入、太陽光発電設備の設置、太陽熱の集熱を行い、太陽光は電力、太陽熱は暖房時だけではなく導入外気の温度、湿度監理の熱源補助として利用。
・『エネルギーチムニー』は自然採光を建物全体に届ける搭に、暖房時上部に溜る温かい空気を再利用する搭に、冷房時、低層部からの涼しい空気を積極的に導くための熱の搭に搭として計画する事でパッシブデザインを最大限に取入れます。



（様式９）実施方針書

参加者番号

0	0	3

基本方針

日本大学医学部新校舎

本館棟（築88年）大学院棟（築67年）等、既存校舎の老朽化に伴う建替え計画となります。

医学部新整備のコンセプトである

「Ⅰ.優秀な人材の育成」「Ⅱ.地域に対する貢献」「Ⅲ.医学部としての経営基盤の構築」

のうち「Ⅰ.優秀な人材の育成」を実現する校舎の建設を目標とします。

また、近年進化が著しい遺伝子検査、リキッド・バイオプシーや再生医療、免疫細胞治療

低侵襲手術、ロボット手術など新しい技術が学べる場を提供することも、目標の1つとなります。

業務への取組体制

「共に創る」　臨機応変・柔軟に対応します。

常に日本大学の皆様と「共に創る」視点をもちながら業務を進めます。

設計段階で出された様々なご意見、ご要望について多角的な検討を行い、柔軟に対応します。

■専属スタッフによる綿密な対応

大学施設・病院施設各々に対して設計経験豊かなスタッフや、大学ワークショップの経験者を

専属で配置します。

経験豊かなスタッフによる大学ヒアリングや学生参加の会議への対応、教室環境調査を通して、

ユーザーの意見を確実に反映します。

■設計窓口の一元化

業務遂行に際しては、あらゆる要望に対して設計窓口を一元化し、情報のスムーズな伝達を可能にします。

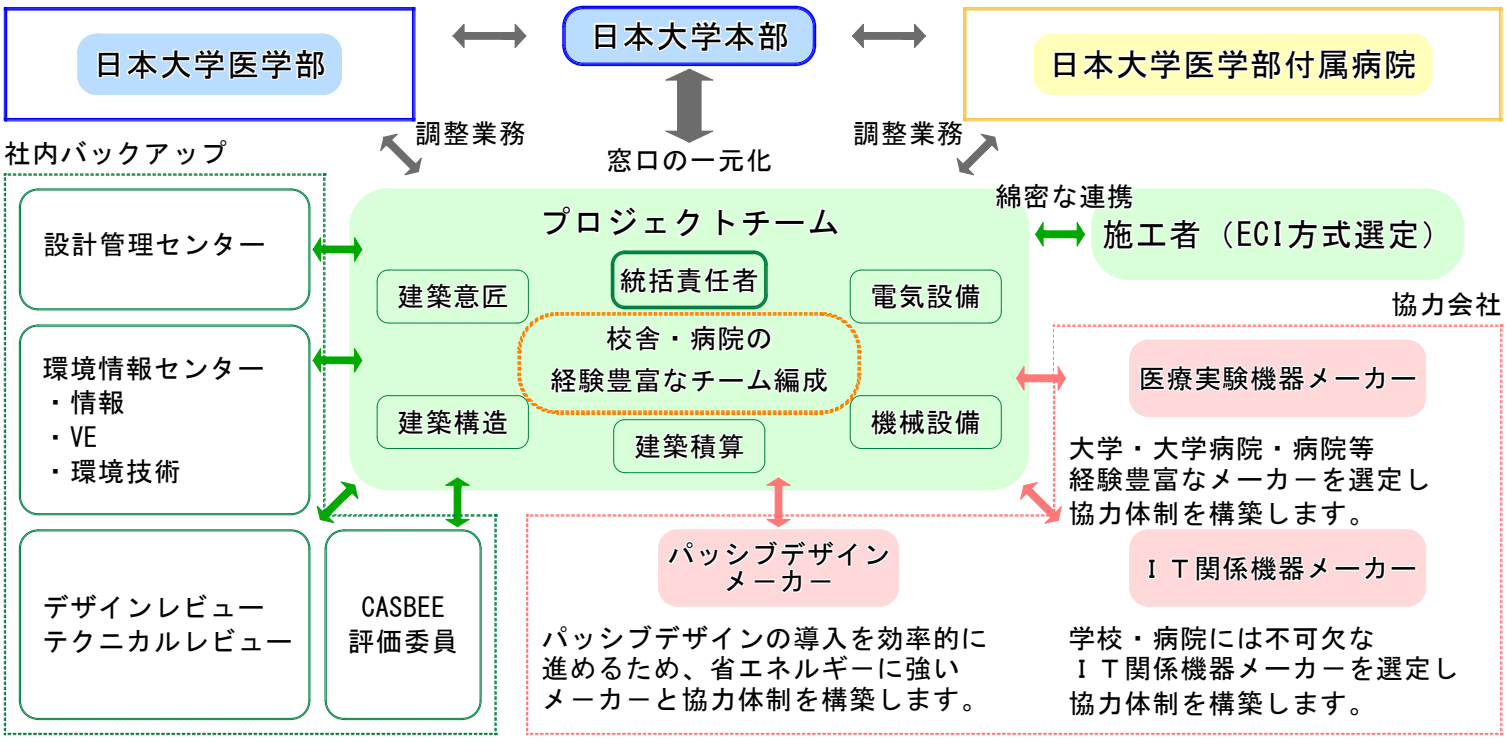
設計の各担当への連絡が迅速に行き渡るチーム編成とし、様々な要望に対して臨機応変に対応します。

■ＥＣＩ方式により選定された施工者との積極的な連携

選定施工者とは施工方法の検討も含め、積極的な連携を図ります。

■設計チームを支える社内バックアップ体制

全体的なサポート体制を構築し、最先端の技術情報を基に設計チームを支援します。



（様式10）実施方針書（コスト管理）

参加者番号

0	0	3

コスト管理

昨今の建設工事費高騰に対応したきめ細かいコスト管理を徹底致します。

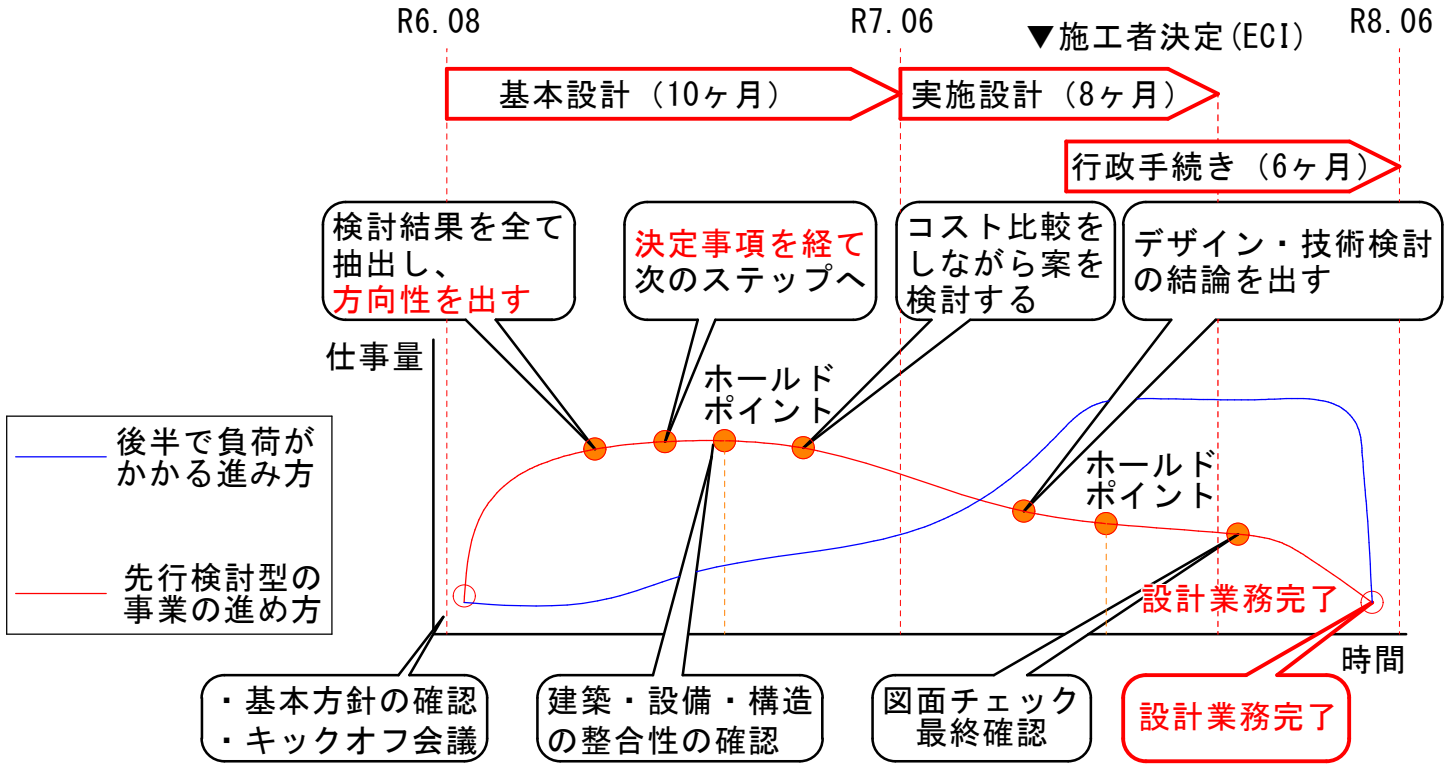
■後戻りのないコストコントール

同種施設の実績に基づいた、設計の後戻りのない精度の高いコストコントロールを行います。

■先行検討型による工程監理の徹底

模型やBIM等を活用し、検討課題が常に可視化された設計を可能にします。

基本設計、実施設計の各段階にホールドポイントを設け、円滑に設計が進むように管理します。



●先行検討型プロセス

■概算工事費

	名　　称	摘　　要	数量	単位	金額(税込)	備　　考
1	新校舎棟新築工事		1	式	7,750,050,000	
2	特殊設備工事	地業工事　山留工事　IT設備等	1	式	2,154,606,300	
3	外構工事		1	式	284,900,000	
4	解体工事費	看護専門学校1号棟、看護師宿舎 学生部室棟、体育館、プール	1	式	1,219,378,600	
5	設備切り廻し工事		1	式	419,085,700	
6	改修工事	社会医学教育実験棟	1	式	143,000,000	
7	橋架け替え工事		1	式	1,000,000,000	
	合　　計				12,971,020,600	